



表5. 子どもを同乗させた車内での喫煙を禁止する規制当局

規制当局	適用年齢	日付
アーカンソー	6歳以下または 60ポンド以下	2006年4月制定
カリフォルニア	17歳以下	2008年1月施行
ルイジアナ	17歳以下	2006年8月施行
プエルトリコ	13歳以下	2007年3月施行
バンゴール、メイン	18歳以下	2007年1月施行
Keypoint、ニュージャージー	18歳以下	2007年4月制定
Rockland County、ニューヨーク	18歳以下	2007年6月制定
West Long Branch、ニュー ジャージー	18歳以下	2007年6月制定
キプロス	16歳以下	2002年制定
ノバスコシア、カナダ	19歳以下	2008年1月施行
南オーストラリア	16歳以下	2007年5月制定
タスマニア、オーストラリア	18歳以下	2008年1月1日施行

する新たな道路交通法を制定した。これらの措置は、子どもを受動喫煙から守るために制定されたものではないが、車内を禁煙とし、結果として子どもたちが守られる。

世界中の規制当局は、子どもを同乗させた車での喫煙を禁止する法律を施行する可能性について模索し始めている。しかし、多くの規制当局は法律を制定しておらず、子どもを受動喫煙への曝露から守るための車内での喫煙制限を、成人が自発的に行うことに子どもは頼らざるをえない。

ため、法律は道路安全性の立場から制定された。同様に、英国は2007年9月28日に、運転中の喫煙を「注意を散漫にするもの」と分類し、運転者が喫煙中に車をぶつけた場合、彼らの起訴を容易に

調査は、喫煙者および非喫煙者の両者が子どもを同乗させた車での喫煙禁止令を支持していることを示している

世界中の国々で実施された様々な調査によって、喫煙者の間でも子どもを同乗させた車で喫煙を禁止することへの支持率が高いことが示された。オンタリオたばこ研究ユニットは、オンタリオの成人を対象にした進行中の月1回の調査で得られたデータを解析し、子どもを同乗させた車で喫煙を禁止することへの支持者が、喫煙者でも非喫煙者でも増えていることを明らかにした。2002年から2005年の間に、支持率は喫煙者では50%から66%に、非喫煙者では73%から81%に上昇した(59)。同様に、カナダのビクトリア州ブリティッシュコロンビアでの2006年調査により、喫煙者の88%、過去の喫煙者の90%、喫煙したことのない人の94%が、子どもを同乗

させた車で喫煙を許すべきではないとしていることが分かった(60)。2000年、オーストラリアのニューサウスウェールズ州では、非喫煙者の56%と喫煙者の45%が子どもを同乗させた車内で喫煙を禁止する法律を支持していた(61)。最後に、オーストラリアのパスでは、25歳から54歳の住民調査により、喫煙者の80%と非喫煙者の87%が18歳以下の子どもを同乗させた車内で喫煙を禁止することを支持したことが示された(62)。

これらの調査結果は、喫煙者と非喫煙者の両者の間で、子どもを同乗させた車内での喫煙を禁止することに対する支持率が上昇していることを示しており、このような法律を人々が支持していること

が示唆される。

